

一般に抜歯というと、歯科で歯を抜いてもらって、すぐ帰宅というパターンを連想する。ところが最近、親知らずを入院させて抜く病院が登場している。

名古屋市内の主婦A子さん(43)も、これまで二回入院して、計三本の抜歯をした。きっかけは一昨年の夏、歯茎の表面に出ていない親知らずが、左下一番奥の歯を圧迫して痛み出したためだった。

そこで、親知らずを抜いた経験のある知人に、抜歯の方法や治るまでの様子を聞いたところ、患部に局部麻酔するものの、抜くのには時間近かつたうえ、翌日になってものはが引かず、食事もうくとれなかったという。

主婦はそれでも家事をしなければならぬし、その後も十日ほど毎日、歯科医院へ傷口の消毒に通わねばならず

## 一週一話

## 歯の話あれこれ③

「大変だから覚悟して行った方がいいわよ」という。Aさんは、これを聞いて怖くなった。「何か楽な方法はないか」と探そうと、入院抜歯を知ったという。

このとき、Aさんは一本抜いただけだが、はれが引くまでに四日かかったため、入院は一週間と多少長

## 入院抜歯



入院して行われる親知らずの抜歯＝愛知県春日井市の東海記念病院で

## 『親知らず』一度に2本も

かった。しかし、抜歯は静脈内鎮静剤を使い、本人が夢うつつの中で行われたので「痛みや怖さは全く感じなかった。だから残る二本も抜いてもらう決心がついた」と語る。この抜歯方法を実施している病院の一つ、東海記念病院

(愛知県春日井市) 歯科の秋山芳夫医師は「親知らずの抜歯にすべて入院が必要なのは、横向きに生えた度、歯茎内に埋没していて、普通では抜歯が大変な場合」と説明する。そして、患者の立場からみ

心③食事、病院の栄養士が用意するため、抜歯の状況に合わせたものが食べられる——などを挙げる。

また、Aさんは「主婦にとっては抜歯直後の大変な時期に、家事を忘れて療養できるのも大きい」と話す。

入院抜歯の実施病院は増えつつあり、「親知らずのはなし」の著者で、愛知学院大学歯学部夏目長門講師は「米国では、既に親知らずの入院抜歯は一般の常識となっている。わが国でも今後、この方法が普及するのでは」とみる。

東海記念病院の場合、親知らずを二本抜くとき、三泊四日の入院が普通。費用は手術代や処置薬代などを含め、保険を使って本人一割負担なら一万二万二千元、二割程度負担の家族なら一万二万四千円くらいという。